



夜半、南の中空にはオリオンやシリウスが瞬<sup>またた</sup>いています。年が明ける頃から「平成最後の〇〇」という表現が世間では多くなりました。「平成最後の冬」を皆様はどのようにお過ごしでしょうか。寒い中でも樹木の芽がついているのを見ると、少し元気が出てきます。皆様のご健康をお祈りいたします。

## 火と人間

度々この「古民家だより」でお伝えしてきたように、子どもたちの感性には驚かされます。旧東方村中村家住宅での社会科見学では『昔の明かり』の体験を行っています。雨戸や襖<sup>ふすま</sup>を閉め切った中で観てもらっているのは次の明かりです。

- ◆灯明 (皿に注いだ菜種油に灯心を浸して点燈)
- ◆ろうそく (和ろうそくと洋ろうそく)
- ◆行灯 (木枠に和紙を貼ったもの)
- ◆石油ランプ
- ◆白熱電灯
- ◆蛍光灯

これらの明かりを学習する中で子どもたちの眼が特に輝くのは次の場面です。

- \* 「昔の夜は暗かった」・・・今の明かりに慣れている子どもたちには新しい発見のようです。
- \* 「炎が揺れる」・・・特に灯明や和ろうそくでは風がなくても揺れることが不思議でもあり、ドキドキするようでもあるようです。
- \* 「あ・・・同じ灯なのに」・・・この静かな驚きは灯明を行燈の中に入れた時です。行燈の中に入れると光が少し広がります。この違いに気づいた子どもの声です。和紙は光を乱反射させるのですね。このようなことから、火と人間の関わり方の歴史について改めて次のようなことを考えました。

## 「昔の明かりは 火 でできている！」

小学生にとってはとても新鮮な驚きだったようです。石油ランプは明治から昭和にかけて多くの家庭で使われていました。白熱電灯が用いられるようになったのは、越ヶ谷町や大沢町では大正2年(1913)、周辺の村で最も遅かったのは昭和元年(1926)頃でした。(小学生用副読本「こしがや」昭和60年版)

## 火は家のあちこちにあった

以前の私たちの生活の中には火は当たり前のように日常的に使われていました。炊事や暖房用としてだけでなく、照明や宗教上・儀式上の行為としても用いられましたので、家の中では何カ所も火を使っていました。かまど、囲炉裏、風呂、こたつ、行火、仏壇、神棚などです。懐炉も文字通り懐<sup>かいろう</sup>に入れて持ち歩く“火”でした。



## 人類の歩みと火

「昔の明かりは火でできている！」という感想は、私たちの今後、将来の在り方について、大切な何かを示唆しているように思われます。

700万年ともいわれる人類の歴史の中で、火を使うようになってからは数十万年だそうです。それ以前と比べると格段に暮らしやすくなり、寿命も延びたことでしょう。そして火、炎の不思議さにある時は恐怖を感じ、またある時は敬う気持ちも抱いたことでしょう。このような『おそれ』はやがて人間の精神形成に大きな役割も果たしたと思います。こうして日々の営みの中で住居の複数個所で火を用いるようになっていきました。

現在は照明はもちろん、暖房にも調理にも炎を出す火を使わないことが当たり前になってきました。便利で安全になったのです。けれどもそのことで私たちの心の中でも何かが変わっていくかもしれません。便利になればなるほど、先人の営みを学ぶことや想像力を高めることが、人間として大切なものかもしれません。

73年前の冬

# 作家の眼が捉えた世の中、そして越ヶ谷

第二次大戦が終わった昭和20年(1945)9月28日から昭和22年(1947)3月9日の間、作家の野口富士男は妻の実家がある越ヶ谷に疎開していました。

それは1年半のことでしたが、病後であるうえに生活難もあり、当地での生活は作家にとって体力回復や著述の充電のためにとっても大切な期間となったようです。氏が当時日々書き記した文章が「越ヶ谷日記」として刊行されています。(越谷市教育委員会発行)

この書の昭和21年(1946)1月中旬の記述の中に、越ヶ谷町と大沢町の貼り札や貼り紙、引き札をことごとく書き出しているところがありました。(店の看板以外)2つの町で合計84件にもなります。その内、一部の所々を右に紹介します。図は氏自身のスケッチで、日記のこの部分は市立図書館に展示してあります。

## 越谷への エール

昭和21年(1946)1月18日の記述に次のようにあります。

散歩をして、(中略)ある薬局の前に、「越ヶ谷文化<sup>れんめい</sup>聯盟」というポスターの貼られているのに気がついたので、近よって行って規約を読んだら、会員持ちよりの図書を基礎にして、国民学校の図書室を借りて一般に閲覧せしめること、(中略)地方も、次第に文化にめざめてゆく姿を見て結構なことだと思った。よい芽よ萌えよ。



元荒川を散策する野口夫妻

くれたことがありました。野口富士男の文と共に、今後私たちが心に留めておきたい言葉です。

△江戸川筋御猟場 宮内省 昭和二年 NO SHOOTING △日本革新党大演説会  
 △もぐさあります どくだみあります げんのせうこあります (中略) にはどこ  
 あります にんにくあります (どくだみ げんのしょうこ、にわとこ) は漢方薬の原料  
 ですが、民間療法にも使われました △世界の家庭薬メンソレータム △警告越ヶ谷  
 警察署 正当ノ理由ナクシテ日本刀。軍刀。指揮刀。銃剣。短刀。匕首(あいくち)  
 (中略) ヲ携帯シタル者(中略)ハ本年一月四日ヨリ厳罰ニ処セラレマス以上 △エス  
 ビーカーレー粉が入りました 大包一ケ金四円八十銭 △時局大講演会主催日本  
 自由党 △毛糸編物の御用承ります △US ARMY PRO-STATION 3030 INF △行きま  
 せう炭鉱へ 製産も輸送も石炭から 食糧五合配給 衣料支給 日給八円以上(一  
 九三九年の日雇い労働者の一日の賃金は 円。一九四五年の米一升の公定価格は五三銭でヤ  
 ミ価格は七〇円でした。一九四六年頃から復員してきた人を鉱山や土木事業に雇うことが増  
 えました。)

昭和二年一月三日の項の図

越谷を応援して下さった文です。越ヶ谷文化聯盟は当時の有志によって結成された団体で、文学や音楽などの部が活動しました。「国民学校」とは現越ヶ谷小学校のことです。その小学校の一室を借りての図書閲覧の灯はその後消えかけますが、復活して町立図書館、そして現在の市立図書館へと繋がっていきました。今当たり前のようにある図書館ですが、人々の渴望と努力によって創設されたものなのですね。

戦中戦後の混乱期、高度経済成長期、バブルの崩壊、大きな災害を生き抜いて来られたある町家のご店主がこんな話をして

人は昔からいろいろな出来事や人と繋がって来て今があります。これから先、ずっと穏やかで何も無いということはありません。それなのに、今の様子を見ていると、何かがあったときに乗り越えていけるのだろうかと思います。